

(4) 研究の考察

考察の視点

本研究では、学習状況調査の結果から見える課題の解決を目的として、生徒の実態を把握し、授業改善の手立てを講じた授業実践に取り組んできました。そこで、以下の2点を視点に授業実践を考察します。

- ア もっている知識や調べて分かったことを根拠として、社会的事象の意味、意義を多面的・多角的に考えて説明したり、論述したりする力が付いてきているか
- イ 思考や判断、表現などの過程を通して、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けながら社会的事象の意味、意義を理解する力が付いてきているか

アの視点について

もっている知識や調べて分かったことを根拠として、考えたことを説明したり、論述したりする力が付いてきているかどうかは、実践事例2(第2学年「近代国家の歩みと国際社会～新しい価値観のもとで～」)の第8時のワークシートを基に、意思決定の理由の中に学習したことが含まれていたかどうかで判断しました。その結果、意思決定の理由には、96%の生徒が、この単元で習得した知識や概念を活用していました。また、86%の生徒が、根拠を基に理由を示して自分の考えを記述することができていました(表1)。この単元を通して、生徒は学習したことを根拠に自分の考えたことと結び付けて説明したり、論述したりすることができていたと考えます。

表1 実践事例2のワークシートの分析結果

習得した知識や概念を活用している	96
習得した語句・用語を使っている	64
根拠・理由・結論がそろっている	86

※数値は%で表示しています。

社会的事象の意味、意義を多面的・多角的に考える力が付いてきているかについては、実践事例3(第3学年「人間の尊重と日本国憲法」第13時)のワークシートの記述を基に考察します。意思決定の理由に違う立場を考慮した記述があるか、根拠にしているデータや理由付けの記述がいくつ含まれるかで判断しました。以上の判断基準で生徒のワークシートをみると、違う立場を考慮し複数の根拠や理由を記述できた生徒は73%でした(表2)。このように、根拠を基に理由を示して自分の考えを表現していることから、社会的事象を多面的・多角的に考える力が付いてきたと考えられます。

表2 実践事例3のワークシートの分析結果

多面 多角	×	○	合計
3つ以上	0	34	34
2つ	8	39	47
1つ	3	16	19
記述なし	0	0	0
合計	11	89	100

※数値は%で表示しています。

イの視点について

基礎的・基本的な知識や概念を身に付けながら社会的事象の意味、意義を理解していたかどうかは、実践事例 1(第 1 学年「世界の諸地域～北アメリカ州～」)の第 7 時のワークシートの記述の中に、学習問題に対する自分の考えを論述し、それを簡潔な言葉でまとめることができたかで判断しました。学習問題Ⅱ(論題)に対する最終的な意思決定の理由

を見ると、約 84%の生徒が、習得した知識や概念を活用して自分の主張を記述していました。また、約 88%の生徒が、その主張を目指す社会像として簡潔な言葉で表しています(表 3)。このことから、基礎的・基本的な知識や概念を身に付け、社会的事象の理解も深まったと考えます。

以上のことから、学習状況調査から見える課題を解決する授業改善策としての効果がうかがえました。

表 3 実践事例 1 のワークシートの分析結果

習得した知識や概念を活用している	84
簡潔な言葉でまとめている	88
上記の両方ができている	78

※数値は%で表示しています。